

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3527		
科目名	インテリジェンス論 1 (特論)		
担当教員	小谷 賢		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 2		
講義室	1310	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門展開 (3000)		
科目小分類	5. 専門・危機管理		
科目の位置付け (開発能力)	■ D Pコード： 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP7-C [他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から 取り組み、社会的な存在としての自己の行 動原理を獲得することができる。 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し 利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効 かつ円滑に行い、課題の解決につなげるこ とができる。 ■ CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連 C1 倫理的思考・社会認識 (10%) E1 学識と専門技能 (70%) I1 理解・分析と読解 (20%)		
教員の实務経験	防衛省防衛研究所に12年間勤務。その間に企画室情報発信調整官を務め、防衛省や内閣官房の情報部門とのやり取りも経験している (第9, 10, 11回)。		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	現代インテリジェンスは、国家の安全保障に係わる活動ですが、方法論の視点からは、主として次の四つの分野で構成されています。即ち、ヒューミント (人が人を対象)、シグント (電話やインターネット通信或いはレーダ信号など信号情報を対象)、イミント (画像衛星、レーダ衛星、航空写真などの画像情報)、マシント (対象物から発出される音波、赤外線、放射線、化学物質などを計測する諜報活動) です。また、組織論の視点からは、フォーリン・インテリジェンス (対外諜報)、ミリタリー・インテリジェンス (軍事諜報) 及びセキュリティ・サービスの三つに大別されます。これら現代インテリジェンスは20世紀に発展したものであり、20世紀における世界の対立構造に大きく影響を受けています。 そこで、本授業では、20世紀の世界の対立構造との関連において、主として我が国に関連する様々なインテリジェンス事象を取り上げて、ヒューミント、シグント、セキュリティ・サービス等のインテリジェンス諸活動を具体的且つ理論的に考察します。インテリジェンスに関する知識を身に付けるとともに、インテリジェンス的意識、態度を養うことを目標とします。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業 (オンデマンド型) を取り入れます。 ■キーワード： インテリジェンス、ヒューミント、シグント		
授業の趣旨	■ 副題 明治期以降の日本のインテリジェンス・コミュニティーと世界のインテリジェンス・コミュニティーについて ■ 授業の目的		

	安全保障関連業務の従事者にとって必須の真のインテリジェンスの姿を理解することにより、インテリジェンスの考え方を追究し、インテリジェンスの観点から世界の事象を理解し説明する能力を身に付けることを目的とします。 ■ 授業のポイント インテリジェンスは秘密保持義務が極めて高い活動分野であるため、「知っている人は語らない。良く話す人は実は良く知らない人」という世界です。その上、日本ではインテリジェンス組織が極めて弱小であるため、真のインテリジェンスを知る人も少なく、世間には似て非なるインテリジェンス本が溢れています。本授業では、インテリジェンス諸活動を20世紀の世界の対立構造との関係、国家安全保障に関する脅威の視点から考察することにより、インテリジェンスの真の姿を理解することを目指します。	
総合到達目標	■ 20世紀、21世紀の国際政治の重要事象について、インテリジェンスの観点から説明できるようになる。 ・ 戦前の日本陸海軍の実態と成果について説明できるようになる。 ・ 戦前のソ連の対日諜報工作、革命工作の特徴と成果について説明できるようになる。 ・ 戦後の日本の各省庁のインテリジェンス活動について説明できるようになる。 ・ 戦後日本に対するソ連・ロシア、中国、北朝鮮による諜報工作の特徴と成果について説明できるようになる。 ・ 冷戦終結後から第二次安倍政権までのインテリジェンス改革について理解できるようになる。 ■ インテリジェンス事象について、世界の構造に対する歴史的視点、国家安全保障に対する脅威の視点から、考察し説明できるようになる。 ・ 共産主義思想の特質、階級国家観を理解した上で、共産主義イデオロギーとその世界革命戦略に基づく諜報活動の特質について説明できるようになる。 ・ 自由民主主義と共産主義とを対比して理解した上で、自由民主主義国家に対する共産主義国家の諜報活動の脅威を説明できるようになる。 ・ 米国の例に基づき、秘密保全制度の根幹をなす制度（秘密指定制度、機微区画情報制度、秘密情報へのアクセス、適格性の審査指針、個人背景調査等）について説明できるようになる。	
成績評価方法	■ 授業参加度及び確認テスト13回（65%）：運用ルーブリックC1、E1、I1（評価の観点）毎回、3 択の確認テスト（3 問）を提出してもらいます。（フィードバック方法）リアクション・ペーパー課題についてのフィードバックは、クラスルームにておいて行います。 ■ 授業内テスト1回（35%）：運用ルーブリックC1、E1、I1（評価の観点）第15回の授業内に論述式の期末テスト（35%）を課します。（フィードバック方法）クラスルームで、正誤問題の解答及び解説を配布します。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	本授業は、20世紀の日本史について全く知識がないと理解が困難です。従って、高校の日本史教科書（明治維新以降の部分をしっかり読み直しておくことを勧めます。高校の教科書を持っていない人は、中学生の歴史の復習でも結構です。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ イントロダクション、インテリジェンス組織論 ②授業概要 授業の主題、内容、構成、成績評価方法について説明を行います。 担当教員の実務経験を踏まえて、インテリジェンスの組織論を講義します。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する「講義動画」を視聴して、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、インテリジェンスの定義、インテリジェンスの常識、基本的なインテリジェンス組織、その他講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。
	2	①授業テーマ 戦前日本のインテリジェンス① ②授業概要 日本陸軍の情報活動について。また関連して、日本陸軍の基本任務を説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。

	④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、帝講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本軍のインテリジェンス』
3	①授業テーマ 戦前日本のインテリジェンス② ②授業概要 日本海軍の情報活動について。また関連して、日本海軍の基本任務を説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本軍のインテリジェンス』
4	①授業テーマ 冷戦期日本のインテリジェンス① ②授業概要 戦後直後の日本のインテリジェンス・コミュニティの再編を説明できるようになる。併せて、内務省、陸海軍、外務省の関係を説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
5	①授業テーマ 冷戦期日本のインテリジェンス② ②授業概要 戦後日本の中央情報機構がどのように構築されたのか理解することにより、調査室に設置が戦後日本の情報活動に与えた影響を説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
6	①授業テーマ 冷戦期日本のインテリジェンス③ ②授業概要 調査室をめぐる各省庁の確執を理解することにより、インテリジェンス分野における縦割りの弊害について説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
7	①授業テーマ 冷戦期日本のインテリジェンス④ ②授業概要 冷戦期の赤軍の活動と公安警察の暗闘について学ぶことで、警察の情報活動の基本について説明できるようになる。（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講

	義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
8	①授業テーマ 冷戦期日本のインテリジェンス⑤ ②授業概要 冷戦期の公安調査庁、並びに防衛庁・自衛隊の情報活動について学び、それが必要だったのかどうかについて説明できるようになる。(C1・E1・I1) ③予習(120分) Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。 ④復習(120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
9	①授業テーマ 冷戦後の日本のインテリジェンス① ②授業概要 冷戦後、湾岸戦争、阪神淡路大震災、オウム事件等、危機管理事案が多発し、日本のインテリジェンスはその強化に迫られた。その結果、情報機構の改革や情報本部、内閣衛星情報センターが設置された。その設置経緯について説明できるようになる。担当教員の実務経験を踏まえて講義します。(C1・E1・I1) ③予習(120分) Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。 ④復習(120分) 講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
10	①授業テーマ 冷戦後日本のインテリジェンス② ②授業概要 2000年代の町村レポートを始め、インテリジェンス改革について記された諸報告書を読み解くことで、当時の日本のインテリジェンスが何を求められていたのかを説明できるようになる。担当教員の実務経験を踏まえて講義します。(C1・E1・I1) ③予習(120分) Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。 ④復習(120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』
11	①授業テーマ 冷戦後に日本のインテリジェンス③ ②授業概要 2012年以降の第二次安倍政権で行われたインテリジェンスや安全保障分野における諸改革を学ぶことで、それらがどのような意味を持っていたのかを説明できるようになる。担当教員の実務経験を踏まえて講義します。(C1・E1・I1) ③予習(120分) Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。 特に疑問点を記録しておく。 ④復習(120分) 配布資料を再読して授業を振り返り、講義のポイントとこれに対する自分の感想を講義ノートにまとめる。 参考書：小谷賢『日本インテリジェンス史』

	12 ①授業テーマ 諸外国のインテリジェンス・コミュニティ① ②授業概要 世界で最も伝統のある英国のインテリジェンス・コミュニティを学ぶことで、各省庁間の情報共有がどのように実施されているのかを説明できるようになる（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義ノートにまとめる。 13 ①授業テーマ 諸外国のインテリジェンス・コミュニティ② ②授業概要 世界で最も巨大な米国のインテリジェンス・コミュニティを学ぶことで、各省庁間の情報共有がどのように実施されているのかを説明できるようになる（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義ノートにまとめる。 14 ①授業テーマ 諸外国のインテリジェンス・コミュニティ③ ②授業概要 イスラエルのインテリジェンス・コミュニティを学ぶことで、各省庁間の情報共有がどのように実施されているのかを説明できるようになる（C1・E1・I1） ③予習（120分） Classroom「授業」に掲示する講義資料をチェックして、内容について考えておく。特に疑問点を記録しておく。 ④復習（120分） 配布資料を再読して授業を振り返り、講義ノートにまとめる。 15 ①授業テーマ 総括 ②授業概要 半年間の授業を総括します。論述式の授業内テストを実施します。（C1・E1・I1） ③予習（120分） 授業での配布資料と講義ノートの全体を読み直す。 ④復習（120分） ポータルで配信する正誤問題の正解と自分の解答を対比して誤りがあれば、授業配布資料と対比して理解の誤りを正す。
関連科目	インテリジェンス（RMGT3534）と密接に関連する。 その他、社会安全政策論（RMGT3521）テロ対策論（RMGT3528）、安全保障論1（国際安全保障）（RMGT3551）、比較宗教・文化論（RMGT3553）、安全保障論2（国家安全保障）（RMGT3554）、ストラテジー（RMGT3555）、外交史（RMGT3556）、国際テロリズム論（RMGT3558）とも関連する。
教科書	小谷賢『日本インテリジェンス史』（中公新書 2022年）
参考書・参考URL	（下記の参考書は、概ね図書館に収蔵されている。） ・ジョン・アール・ヘインズ、ハーヴェイ・クレア『ヴェノナ』（PHP研究所、2010年） ・中西輝政『日本人としてこれだけは知っておきたいこと』（PHP新書、2006年） ・江崎道朗『アメリカ側から見た東京裁判史観の虚妄』（祥伝社新書、2016年） ・レーニン『国家と革命』（各種文庫） ・ベン・マッキンタイア『キム・フィルビー』（中央公論新社、2015年） ・加藤哲郎『ゾルゲ事件』（平凡社、2014年） ・チャルマーズ・ジョンソン『ゾルゲ事件とは何か』（岩波現代文庫、2013） ・立花隆『日本共産党の研究』（上、中、下）（講談社文庫、1983年） ・小林俊一・鈴木隆一『昭和史最大のスパイ・M』（ワック、2006年） ・小林俊一・加藤昭『闇の男 野坂参三の百年』（文藝春秋、1993年） ・兵本達吉『日本共産党の戦後秘史』（新潮文庫、2008年） ・袴田里見『私の戦後史』（朝日新聞社、1978年） ・治安問題研究会『新・日本共産党101問』（立花書房、2012年） ・警察庁警備局『スパイの実態』（1984年）

	・レフチェンコ『KGBの見た日本』（日本リーダーズダイジェスト社、1984年） ・佐々淳行『私を通り過ぎたスパイ達』（文藝春秋、2016年） ・佐々淳行『金日成閣下の無線機』（読売新聞社、1992年） ・名越健郎『クレムリン秘密文書は語る』（中公新書、1994年） ・コワレンコ『対日工作の回想』（文藝春秋、1996年） ・金東赫『金日成の秘密教示』（産経新聞社、2004年） ・西岡力『韓国分裂』（扶桑社、2005年） ・全富億『北朝鮮の女スパイ』（講談社、1994年） ・金賢姫『いま、女として』（上、下）（文藝春秋、1991年） ・張龍雲『朝鮮総連工作員』（小学館文庫、1999年） ・韓光(ハングァン)熙(ヒ)『わが朝鮮総連の罪と罰』（文藝春秋、2002年） ・平野聡『「反日」中国の文明史』（ちくま新書、2014年） ・小野寺史郎『中国のナショナリズム』（中公新書、2017年） ・デイヴィッド・ワイズ『中国スパイ秘録』（原書房、2012年） ・柏原竜一『中国の情報機関』（祥伝社新書、2013年） ・ニコラス・エフティミアデス『中国情報部』（早川書房、1994年） ・マイケル・ピルズベリー『China2049』（日経BP社、2015年） ・遠藤誉『毛沢東 日本軍と共謀した男』（新潮新書、2015年） ・袁翔鳴『蠢く！中国「対日特務工作」㊦ファイル』（小学館、2007年） ・社会運動研究会『増補改訂 極左暴力集団』（1986年） ・田代則春『過激派集団の理論と実践』（立花書房、1985年） ・読売新聞社会部『連合赤軍』（潮出版社、1972年） ・野村旗守『Zの研究』（月曜評論社、2003年） ・右翼問題研究会『右翼の潮流』（立花書房、2006年） ・猪野健治『日本の右翼』（ちくま文庫、2005年） ・天道是『右翼運動100年の軌跡』（立花書房、1992年）
連絡先・オフィスアワー	■ 連絡先 開講時に告知します。 ■ オフィスアワー 水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■ 危機管理領域との対応 災害マネジメント0%；パブリックセキュリティ40%；グローバルセキュリティ40%；情報セキュリティ20% ■ 危機管理と法学のバランス 危機管理学95%；法学5%

